事例No.	690
公表年度	H30
団体の属性	一般市
団体名	佐賀県唐津市

事例区分	公会計

タグ	・セグメント分析 ・情報開示 ・公共施設等総合管理計画

事例種類	セグメント分析

事例内容・タイトル

地方公会計の情報を用いたセグメント分析について

出典

地方公会計の推進に関する研究会

地方公会計の情報を用いた
セグメント分析について

佐賀県唐津市財政課

唐津市
http://www.city.karatsu.lg.jp

目　次

■ 唐津市の概要と公共施設の現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
■ セグメント分析の目的と今年度の取組 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
■ 人件費等の配賦基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
■ 施設別財務書類の作成手法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
■ ロードマップの作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

唐津市の概要と公共施設の現状

●唐津市は、平成17年1月及び平成18年1月に９市町村が合併し、誕生

●唐津市の公共建築物は、平成26年度末現在で延べ床面積79.7万㎡、このうち築30年を超える施設は、45.4万㎡と全体の57%を占めている。

●また、合併前から存在する同種の施設を複数保有している。

今回、**将来の更新・維持管理費用を削減**するため、現在更新等を検討している施設について、**施設別**財務書類を作成する。

各施設のコストの見える化を図り、予算編成等の基礎資料とする。
また、利用者数や立地なども勘案しつつ、同種施設との**コスト比較**を行う。

指　標	数　値
人口　（H30.4.1）	123,107人
面積　（H29.10）	487.58k㎡
財政力指数　（H28）	0.42
標準財政規模　（H28）	35,743,991千円
実質公債費比率（H28）	14.1%
将来負担比率　（H28）	130.8%
有形固定資産減価償却率（H28一般会計等）	72.8%

セグメント分析の目的と今年度の取組

〈 課　題 〉

予算編成	・一般財源の確保 ・判断材料(資料)の充実と簡略化
行政評価	・予算編成への反映 ・ＰＤＣＡサイクルの再構築
主要施策成果説明書	・資料の充実 （説明責任の充実）
公共施設の老朽化など	・公共施設の老化、同種施設

〈 公会計等に係る取組状況 〉

公会計の推進	・統一基準により作成 (H28年度決算～)
公共施設再編の推進	・各地域で議論 ・再配置計画策定(H30年9月)
機構改革など	・行政改革課(H30年8月～) ・未来づくり研究会(H29年度～)

〈 課題の解決 〉

解決策の一つとして、公会計の情報を活用

セグメント分析により

行政コストの見える化

STEP①　アカウンタビリティの充実
STEP②　公共施設等のマネジメント

〈 H30年度の取組 〉

●H30年度は、**試行期間**と位置づけ、事業実施

●モデルケースとして、更新を検討している施設とその同種の施設を対象に**施設別財務書類**を作成

●総務省の事業を活用し、実務に落とし込むための**課題の整理**など実施

●持続していくため、体制づくり等含め、**ロードマップ**を作成

人件費等の配賦基準

NO.	項　目	考え方	考え方の補足
1	セグメント分析の目的	アカウンタビリティーの充実	・市民に対するアカウンタビリティーの充実 ・行政における観察、判断資料として活用（予算編成、行政評価、主要施策成果説明書等の基礎資料として活用）。将来は、マネジメントにつなげる。
2	セグメントの設定	施設別	・Ｈ30年度は施設別をモデルケースとして実施 ・今後、「他の施設」、「事業別」、「所属別」への展開も検討
3	対象範囲	一部施設	・Ｈ30年度は現在更新等を検討している施設とその同種の施設：6施設 ①図書館2施設　②市民会館・文化会館4施設 ・今後、他の施設に展開するため、Ｈ30年度は様式等検討
4	共通資産の取扱	配賦	・複合施設は、配賦 ・建物は、占用面積割で配賦。土地は、共通資産として計上。物品は、目的に応じ各事業へ配賦（今回は該当なし） ・「庁舎」など市の共通資産は、配賦しない
5	共通費の取扱	配賦	・水道光熱など複数施設にまたがる場合は配賦
6	人件費の配賦基準	平均給与×従事職員数	・平均給与は、年間平均給与 ・年間平均給与の算定：実支給額（ただし、特別職は除く。時間外等の手当含む）を、決算年度当初と年度末の職員数でそれぞれ割った額の平均値 ・従事職員数は、施設の維持管理及び運営に直接携わる人数 ・複数の施設を管理している場合は業務量(時間)に応じて按分（小数点1桁単位）※担当課ヒアリング実施
7	共通費の配賦基準	施設の規模等により按分	・水道光熱など複数施設にまたがる場合は施設の延床面積で按分
8	退職手当引当金・繰入額の配賦基準	平均支給額×従事職員数	・平均支給額は、健全化比率の算定の４⑤Ａのシートをベースに算定。決算年度末の職員数より平均支給額算定 ・従事職員数は、NO.6と同様
9	賞与手当引当金・繰入額の配賦基準	平均支給額×従事職員数	・平均支給額は、決算年度の翌年度の６月支給実額のうち100/100支給者を抽出しその4/6月分をベースに算定。決算年度末の職員数より平均算定 ・従事職員数は、NO.6と同様
10	地方債の配賦基準(臨財債を含む)	配賦	・起債台帳のデータに基づき、該当事業に配賦 ・複数の事業を一括で借入れしているものは、過去の起債資料から振り分け ・臨時財政対策債は今回の分析では配賦しない
11	予算科目の見直し	なし	・今後、ソフトウェアの導入等含め検討
12	指定管理料の取扱	フルコスト計上	・人件費など各科目に計上

施設別財務書類の作成手法①

必要なデータの収集

- **Ｈ28年度に作成した「唐津市公共施設白書」のデータを活用**
  - **従事職員数や、利用者数などの「非財務情報」の更新を担当課へ依頼**
- **「コスト」の積算は、財務会計システムの予算整理簿データを活用**
  - **予算科目の「目」の下位の「事業」の予算整理簿より積算**
  - **「観光文化施設管理費」のように、一つの「事業」に複数の施設のコストが含まれている場合は、必要に応じ担当課に確認**
  - **自主事業（イベントなど）の経費は、対象外とした。**
- **指定管理者制度を導入している施設は、指定管理者の決算書より積算**

財務書類の作成

- **収集したデータを活用し、Ｐ４の配賦基準に基づき採用する財務書類作成**
- **作成する財務書類は、**
  ①施設別行政コスト計算書　②施設別貸借対照表

施設別財務書類の作成手法②

公開用資料の検討

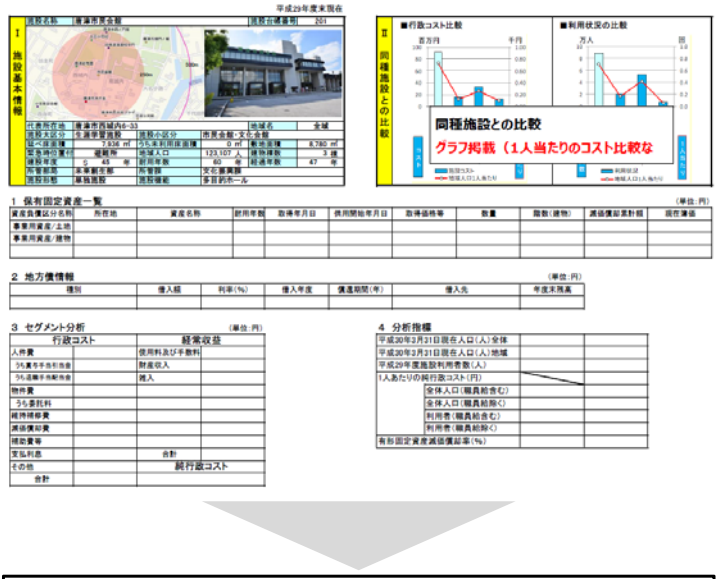
〈 唐津市公共施設白書 〉



〈 施設別財務書類 〉



〈 公開用資料（案） 〉



予算編成、行政評価、主要施策成果説明書等の基礎資料として活用

ロードマップの作成

〈 H３０年度 〉

着手、ロードマップ作成

◎現在の取組内容整理
- ●行政評価、予算編成等の整理
- ●公会計の活用の効果検討

◎モデルケースとして、施設別実施
- ●目的、セグメント対象の整理
- ●当市の公会計業務の課題整理
- ●実務への落とし込み
  - ・職員の事務負担を考慮しつつ、様式・作成要領等整理

◎関係部署との協議
- ●財務部、政策部などとの協議
- ●庁内の研究会発足（若手職員や横断的な委員会との連携）

〈 H３１年度 〉

体制づくり、試行

◎体制づくり
- ●財務部、政策部などを中心とした横断的な体制づくり
- ●職員向け研修の実施（周知）

◎公会計の課題見直し
- ●財務書類の早期作成
  - ・予算編成への反映
  - ・PDCAサイクルの構築
- ●固定資産台帳の精度向上

◎公開用資料の検討

◎予算科目の検討
- ●ソフトウエアの導入も検討

〈 H３２年度 〉

本格実施

H３２年度からの本格実施を目指す

※解決すべき課題を踏まえ、ロードマップ作成